 ©河北新報社 2009

NIE特集

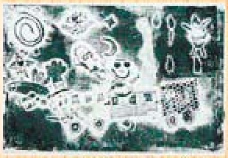
Newspaper In Education

宮城野小

学校名　仙台市立宮城野小学校　　校　長　安斎　知秀
所在地　仙台市宮城野区東宮城野２の１　　児　童　648人
電　話　022（231）6948

うきうきキャンバス

キノコの森のふしぎなようせい
5年・阿蘇遥香


大しぜんれっ車でレッツゴー
3年・山本菜々子

白鳥ととんび
6年・小林秋果

へんてこなうみ
1年・林　優吾

海のなかまたち
4年・浜間優里

どうぶつの家
2年・千葉航裕

乳銀杏の謎を探れ！

1200年間 地域を見守る

知り隊

わたしたちは、宮城野小の校章に、大銀杏の葉とギンナンがデザインされていたことや校歌にも大銀杏という歌詞が入っていたことから「大銀杏」って何だろうと疑問に思い、調べてみることにしました。

学校の敷地内には大銀杏は見当たらなかったので、先生に聞いてみると、学区内にある永野さんという家にある銀杏の木のことだと分かりました。そこで早速、永野さき子さん（六四）にお話を伺いました。

外国からの見学者も

永野さんの家に伝わっている話によると、約千二百年前に聖武天皇の乳母の遺言によって乳母の塚の上に植えられたのが、この銀杏だそうです。国の天然記念物にも指定されていて、幹回りは約八・五㍍で車二台分ぐらいの太さです。高さは約二十八㍍もあり、宮城野小の二十五㍍プールの長さより三㍍も高いのです。

この木の形はとても珍しく、幹などから出た根っこ（気根）が垂れ下がっていることから「乳銀杏」と呼ばれているそうです。

わたしたちは、偉い人が乳銀杏と名付けたものだと思っていたので、そうではないことを知り、びっくりしました。珍しい、この乳銀杏の見学に、県外の人たちだけでなく、外国の人も来るそうです。特に緑の葉の茂るころや紅葉のころに見学する人の多くが、その姿に圧倒されているそうです。

乳銀杏の下で説明してくれた永野さん（右端）

永野さんの家が、こんなに素晴らしい姿をしている乳銀杏を代々守り続けるために、苦労されていることもあるそうです。一つは、台風などで銀杏の枝が、重さや風に耐え切れず折れてしまうことです。もう一つは、無断で銀杏の気根を折って持っていってしまう人がいたことです。

しかし、苦労したことだけではなく、うれしいこともあるそうです。「乳銀杏の木をお参りすると、お乳がよく出るようになると聞いて訪れた人から『お乳がよく出るようになりました』とお礼を言われることが何よりもうれしいことです」と永野さんはおっしゃっていました。

◇　◇

「乳銀杏の周りの空気は、違うように感じます」と最後におっしゃった永野さんの言葉が、少し分かるようになった有意義な体験になりました。ありがとうございました。

文・桜井悠気、永沢尚憲（5年）

言い隊

■運転マナー考えよう■

日本には、運転マナーを守れない人がいます。あなたは、守れていますか。

わたしが家族と車に乗っていた時、前の車の運転手さんが携帯電話を右手に持って運転していました。よく見ると、携帯電話に気をとられているようで、ヨロヨロした運転になっていました。わたしはとても危険だと思いました。

事故が起きたら、運転をしている人はもちろん、家族や事故のまき添えになった人も大変な思いをすることになります。「携帯電話しながら運転しても、わたしは大丈夫」と思っている人も、いつ事故を起こすか分かりません。自分を守るためにマナーを絶対に守ってください。

（5年・脇神有沙）

■ごみポイ捨て やめて■

今の大人は「気づき考え実行する」ができていますか。たばこや缶のポイ捨てはしていませんか。ポイ捨てする大人をよく見ます。お店の外に灰皿があるのに、無視してたばこをポイ捨てし、お店の人を困らせる大人もいます。

わたしたちの学校は「気づき考え実行する」精神を大切にし、JRC委員会を中心に落ち葉拾いや一円玉募金、プルタブ集め、「お拾い」という活動をしています。

活動を通して「ごみはごみ箱へ」「人の迷惑になるような捨て方はしない」ということを学んでいます。ポイ捨てがどんなに迷惑になっているか気づき、考え、実行してほしいと思います。

（5年・佐藤千紘）

教え隊　交通安全レター作戦

無事故の思い 手紙に

「交通安全レター作戦」で、ドライバーに手紙を渡す宮城野小児童

宮城野小では毎年９月に「交通安全レター作戦」を行っています。児童が手紙を書き、運転者や事業所に配布するというものです。

昭和41年に宮城野小の児童が交通事故に遭い死亡した出来事がきっかけでした。翌年には事故現場の学校前に歩道橋ができました。昭和46年からは、同じような事故が起こらないように、そして、こういう事故があったことを忘れないようにと、交通安全レター作戦が始まりました。

それから40年、宮城野小では今も続いており、恒例行事になっています。

文・白柳友規（6年）

編集後記

宮城野小の学区内にある乳銀杏について調べに行き、宮城野小の校章にも使われているイチョウがどんなに素晴らしい木か、また、どんな歴史があったか知ることができました。とっても大きくて、昔からずっとある大イチョウが校章や校歌として使われていることを誇りに思いました。

「言い隊」では、マナーについて、わたしたちからのメッセージを書きました。特に飲酒運転での死亡事故がとても多いので、大人の皆さんには本当に気をつけてほしいと思います。

また、わたしたちもこの新聞作りを通して、身近にある大イチョウを知り、あらためてマナーを守ることの大切さに気づくことができました。このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。

△編集委員▽桜井悠気、永沢尚憲、脇神有沙、佐藤千紘（5年）白柳友規、三浦萌々香（6年）
題字デザイン　三浦萌々香（6年）
△指導教諭▽庄司喜江子、高橋玲奈